

2022
(令和4年)

夏の星空情報

鹿児島市立科学館 宇宙劇場

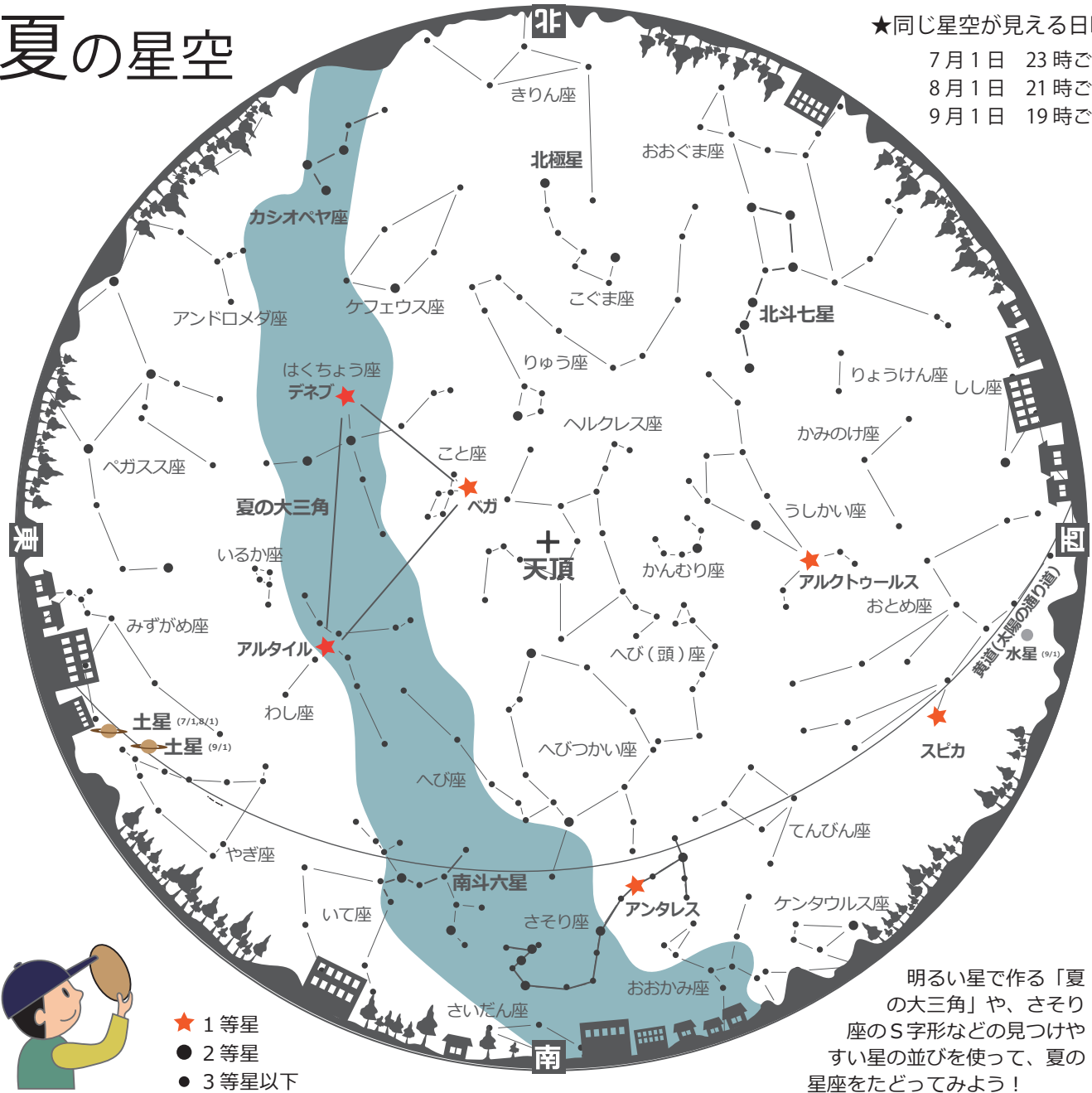
月の形

7月	●(上弦) 7日(木)	●(満月) 14日(木)	●(下弦) 20日(水)	●(新月) 29日(金)
8月	●(上弦) 5日(金)	●(満月) 12日(金)	●(下弦) 19日(金)	●(新月) 27日(土)
9月	●(上弦) 4日(日)	●(満月) 10日(土)	●(下弦) 18日(日)	●(新月) 26日(月)

下の図は、夏の季節に鹿児島市で空を見上げたときに見える星空を示したものです。図の中央が、実際の空での頭の真上の“天頂”にあたり、円の周囲が地平線になります。図の東西南北の方位と自分が立っている場所での方位を合わせ、図を頭上にかざすと、星座や星を見つけることができます。

夏の星空

★同じ星空が見える日時
7月1日 23時ごろ
8月1日 21時ごろ
9月1日 19時ごろ



いよいよ暑さも本番を迎える季節です。7月中旬を過ぎると梅雨も明け晴れる日が多くなり、星を見ることができるようになるチャンスも増えます。さて、この頃の天頂付近では七夕物語の星たちが主役です。こと座の1等星ベガ(織姫星)そして近くには、わし座の1等星アルタイル(彦星)が明るく輝いています。この2つの星と、はくちょう座の1等星デネブを繋げると「夏の三大角」です。さらに、星がきれいに見えるところでは、夏の三大角の背景に白くぼんやりと雲のようにみえる「天の川」が見えます。

他にも深夜から日の出前の空には4つの惑星、土星(0.6等)、木星(-2.4等)、火星(0.5等)、金星(-3.9等)の姿を捉えることができます。中でも木星と土星は8月中旬、9月下旬にそれぞれ「衝(しょう)」を迎え見頃になります。木星は、望遠鏡を使うと縞模様やガリレオ衛星も観察することができます。また火星は、今年12月、約2年2ヵ月ぶりに地球に接近しマイナス1.9等と通常よりも明るく輝きます。

7月の天文カレンダー

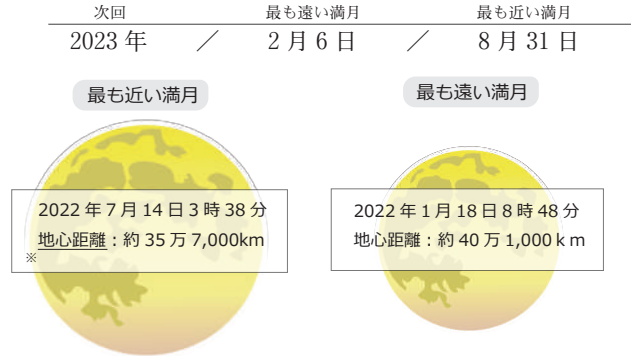
- 6日：月面X^{※1}が見える（18時9分）
※図1参照
- 7日：七夕／小暑（二十四節気）
- 14日：2022年で地球に最も近い満月
- 15日：月と土星が接近
- 22日：月と火星が大接近／火星食（鹿児島からは観測できない）
- 23日：大暑（二十四節気）
- 27日：月と金星が接近
- 30日：やぎ座α流星群が見頃 HR=5^{※2}
（出現期間7月10日～8月25日）
みずがめ座δ南流星群が見頃 HR=10
（出現期間7月15日～8月20日）

※1…月面にある3つのクレーター（ブランキヌス、カイユ、プールバック）がつくる壁が影になって作り出す形

※2…1時間当たりの流星の出現数

2022年最も大きな満月！

7月14日、月が地球に最も近い位置で満月になります。最も遠い満月に比べ視直径が約12%、光っている部分が約26%広くなります。月は地球の周りを楕円軌道を描きながら公転しています。そのため、地球と月の距離は、一定ではなく差が生じます。実際に2つの月を並べるとはできないので、同じレンズ・画角で写真を撮り、比べてみましょう。



※…地球の中心から月の中心までの距離

※イメージ図です

8月の天文カレンダー

- 4日：伝統的七夕（旧七夕）
- 7日：立秋（二十四節気）
- 12日：月と土星が接近
- 13日：ペルセウス座流星群が見頃 HR=30
（出現期間7月20日～8月20日）
- 15日：月と木星が接近
土星が見頃（衝）^{※1}
- 18日：はくちょう座κ流星群が見頃 HR=3
（出現期間8月8日～8月25日）
- 20日：月と火星が接近
- 23日：処暑（二十四節気）
- 25日：月とプレセペ星団（かに座）が接近
- 28日：水星が日の入り直後の西の空で見頃を迎える（東方最大離角）^{※2}

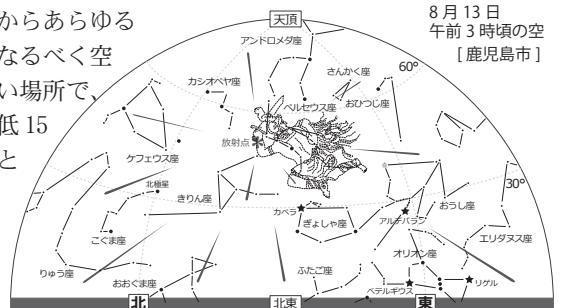
※1…地球の外側を回る惑星が地球に最も近づくとき

※2…地球の内側を回る惑星が見かけ上太陽から最も東に離れるとき

8月12日～13日「ペルセウス座流星群」

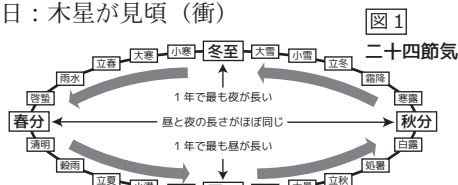
毎年活発な活動を見せる三大流星群のひとつ「ペルセウス座流星群」。今年の極大予想は8月13日の10時頃なので12日深夜から13日の明け方にかけて流星を見ることができそうです。しかし12日が満月のため月明かりの影響で観測条件は良くありません。ペルセウス座流星群は、明るい流星が多いので月明かりに負けない流星が見られるよう期待しましょう。

流星は、放射点からあらゆる方向に流れます。なるべく空を広く見渡せる暗い場所で、目が慣れるまで最低15分以上観察することがポイントです。



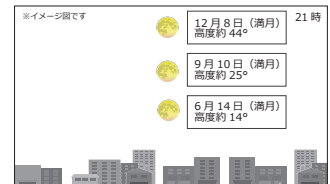
9月の天文カレンダー

- 3日：月面Xが見える（16時45分）
- 8日：月と火星が接近／白露（二十四節気）
- 10日：中秋の名月
9月ペルセウス座ε流星群が見頃
（出現期間9月5日～9月17日） HR=3
- 11日：月と木星が接近
- 17日：月と火星が接近
- 22日：月とプレセペ星団（かに座）が接近
- 23日：秋分（二十四節気）
- 27日：木星が見頃（衝）

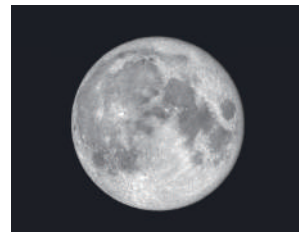


中秋の名月

日本では古くから旧暦8月15日の日を「中秋の名月」として、団子やサトイモ、ススキなどを供えて眺める風習があります。夏や冬に比べ気候が良く満月が丁度良い高さで見られるこの季節は、お月見の絶好の季節です。（右図参照）



また、旧暦9月13日の夜を「十三夜」と呼び、その夜にもお月見をする風習があります。ちなみに今年の十三夜は10月8日です。



画像：アストロアーツ/ステラナビゲータ

なお今回は、中秋の名月と満月の日が重なりますが、中秋の名月が必ずしも満月になるとは限らず、例えば2024年は中秋の名月は9月17日ですが満月は9月18日です。

参照：アストロアーツ「天文現象カレンダー」「ステラナビゲータ」
誠文堂新光社「天文年鑑」